

適期中干しで適正な 生育量を確保しよう

長岡農業普及指導センター

稲作情報 No. 3

代表電話：0258-38-2554

E-mail：ngt111440@pref.niigata.lg.jp

令和2年産コシヒカリは、中干しの遅れたほ場では、梅雨の連続降雨により効果が不十分となることで早期倒伏につながりました。

令和3年産コシヒカリは、中干しが遅れないよう、田植え後25日に茎数を確認し、遅くとも田植え後30日までに開始しましょう。

1 主な中干しの効果

- (1) 中干しを適正に実施することで過剰な分げつを抑え、適正な生育量となることで品質の向上に役立ちます。
- (2) 下位節間の伸びを抑え、倒伏を防止します。
- (3) 土壌に酸素を供給し、根を元気にします。
- (4) 収穫時にコンバインで作業しやすいよう、地固めをします。

2 中干しは適期に実施する

- (1) 本格的な梅雨前に地固めを行いましょう。中干しが遅くなるほど、成熟期の倒伏程度は大きくなります。

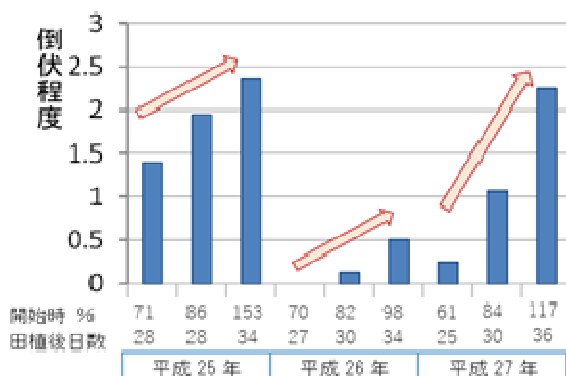


図 中干し開始時期と成熟期の倒伏（作物研究センター）

※有機50%肥料栽培、平成25～27年。開始時%は目標穂数（350本/m²）に対する中干し開始時の茎数の比率。田植え後日数は中干し開始時期を示す。

(2) コシヒカリは田植え後 25 日に茎数を確認し、目標穂数の 70%を確保したら中干しを開始しましょう。遅くとも田植え後 30 日までに中干しを開始し、遅れないようにしましょう。
 高地力等で例年倒伏したり、㎡当たり籾数が 28,000 粒を大きく超えるほ場、茎数過剰が懸念されるほ場は、より早めの目標茎数 60~70%で中干しを開始しましょう。

表 1 目標穂数と中干し開始時期のめやす (コシヒカリ)

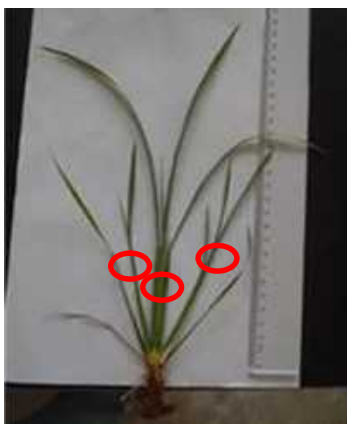
目標穂数 (㎡当たり穂数)	目標穂数の 70% (㎡当たり穂数)	植付株数 (坪当たり株数)	中干し開始めやす (株当たり茎数)
350 本	245 本	50 株	16 本
		60 株	13 本
340 本	238 本	50 株	16 本
		60 株	13 本
320 本	224 本	50 株	15 本
		60 株	12 本

表 2 目標穂数と中干し適期までの日数のめやす (コシヒカリ)

目標穂数 (本/㎡)	植付株数 (株/坪)	中干し開始めやす (株あたり茎数)	中干し適期までの日数のめやす							
			1 株あたり平均茎数 (本/株)							
			9	10	11	12	13	14	15	16
350	50 株	16 本	7日後	6日後	5日後	4日後	3日後	2日後	1日後	本日
	60 株	13 本	5日後	4日後	3日後	1日後	本日	本日	1日前	2日前
340	50 株	16 本	7日後	5日後	4日後	3日後	2日後	1日後	1日後	本日
	60 株	13 本	5日後	3日後	2日後	1日後	本日	1日前	2日前	3日前
320	50 株	15 本	6日後	5日後	4日後	3日後	2日後	1日後	本日	1日前
	60 株	12 本	4日後	3日後	1日後	本日	1日前	2日前	2日前	3日前

※長岡地域コシヒカリ生育調査 7 地点の過去 10 年間における 5 月 30 日~6 月 20 日の期間の
 移植後日数と茎数の関係から試算。

田植え後 25 日に各ほ場の平均的な株の茎数を数えましょう。



・分げつは葉の内側 (主茎側) から出てきます。
 ・写真は、分げつ 2 本+主茎で、茎数 3 本。4 本/株植えだと 12 本/株となります。



(例):ウチは、目標穂数 350 本/㎡で、
 60 株セットだから、今 12 本/株
 だと、明日が中干し適期だね

中干し適期のころは、1日1株あたり約1本以上の茎数が増加するので、中干しは遅れずに実施しましょう！

遅くとも田植え後30日までに中干しを開始。中干し適期は条の先まで見通せる時期です。



(3) コシヒカリ以外の品種は目標穂数に応じて、下表をめやすに行いましょう。多収栽培の中干しは、コシヒカリよりやや弱めで、梅雨入り前に地耐力がつく程度とし、茎数を確保しましょう。

表3 目標穂数と中干し開始時期のめやす（コシヒカリ以外）

品種	目標穂数 (m ² 当たり穂数)	目標穂数の80% (m ² 当たり穂数)	植付株数 (坪当たり株数)	中干し開始めやす (株当たり茎数)
こしいぶき	400本	320本	60株	18本
ゆきん子舞(多収栽培)	470本	376本		21本
つきあかり(多収栽培)	400本	320本		18本
あきだわら(多収栽培)				

(4) 中干しは田面に小ヒビが入り、足跡が付いて歩ける程度とします。遅くとも出穂1か月前には終了しましょう。

- ・ 転作あとや土壌が肥沃な地帯、生育量が大きく倒伏する恐れのあるほ場では、早めに中干しを始め、強めに干しましょう。
- ・ 中干しの終了時期が生殖生長期以降になると、根域が縮小し、品質が低下する場合がありますので、遅くとも出穂期1か月前をめどに終了しましょう。



中干し終了時、かん水時の田面の状況

3 溝切りは確実に実施する

- (1) 溝切りは中干しの効果を高めるとともに、フェーン等の緊急時のかん水や秋の長雨による停滞水の排水を可能にします。
- (2) 溝の間隔は約3m（10条に1本）程度、溝の深さは10cm以上とします。タテ溝とヨコ溝は連結し、必ず水口と水尻をつなげましょう。また、必要に応じて手直しを行いましょう。

4 補植苗はすみやかに処分する

- (1) 補植苗をほ場に放置すると、いもち病の伝染源となります。すみやかに処分しましょう。
- (2) いもち病多発地や、わたぼうし・新之助等のいもち病に弱い品種で箱施用剤を使用していない場合は、本田で必ず予防的な防除を実施しましょう。



5 ワキによる根腐れ対策には夜間落水を実施する

田植えの早いほ場ではワキの発生がみられます。根腐れによる生育停滞を防ぐため、夜間落水又は水の更新を行いましょう。

春の農作業安全特別運動を実施中です。（令和3年4月1日～5月31日）

「過信しない。己の技術、今の体力。」

- 危険箇所や作業工程等を前もって把握し、安全対策を実施しましょう。